

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域社会に貢献する、自立した人を育てる高校

地域社会とのつながりや普通科総合選択制ならではの多様な学びを通じて、生徒一人ひとりの興味、関心や学ぶ意欲を育み、地域社会を支える人づくりをめざす。

【育てたい力】

- 興味、関心や学ぶ意欲と確かな学力
- 人とつながる力（コミュニケーション力）と発信力（プレゼンテーション力）
- 将来の目標に向かって持続的に努力する粘り強さ
- 豊かな人権感覚、地域や社会に貢献する姿勢

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成

ア 授業公開、研修、授業アンケート（年2回）、授業改善シート、研究授業を連動させ、年間授業改善サイクルを充実させる。

ユニバーサルデザインを意識した教育環境の整備、わかりやすい授業づくりに取り組む。

また、ICTを活用した授業改善にも取り組む。

イ 人とつながる力（コミュニケーション力）と発信力（プレゼンテーション力）の育成

生徒の興味や関心、社会と繋がる意識を育てる課題解決型、探究型の「考える」授業づくりに取り組む。

今後の改編を見据え、普通科総合選択制高校の特色であるエリアの学びの成果を共有、発信する「エリア発表会」（2年次）を継続、発展させる。

「総合的な学習の時間」やLHR、学校行事を通じて、つながる力（コミュニケーション力）や発信力（プレゼンテーション力）を育てる。

地域の学校・施設等と連携しての交流や体験学習、ボランティア・自主活動の充実、学習成果の地域への発信を推進する。

2. 豊かな人権感覚の醸成

ア 学校行事やクラス活動における生徒相互の関わりや協働性を重視し、自尊感情や生徒相互の信頼感を醸成する。

イ 生徒の実態に即した課題を設定し、当事者の話を聴くなど共感に基づく人権学習を通じて、豊かな人権感覚を醸成する。

ウ 校外での実習や体験、発表、地域活動への参加等を通じて自己有用感、達成感を醸成し、公共心やボランティア等社会貢献への意識を育てる。

3. 生徒支援体制の充実

ア 人権教育推進委員会、教育相談委員会、支援教育コーディネーターの連携を密にし、校内の教育相談・支援体制を一層充実させる。

高校生活支援カードを有効に活用し、支援の必要な生徒の早期発見、実態把握に努める。

必要に応じてケース会議を適宜開催し、外部機関や専門家とも連携して、具体的な支援に努める。

生徒とともに保護者への適切な助言、支援を行う。

4. 「ともに学び、ともに育つ」教育の充実

ア 新たに設置される「共生推進教室」の取り組みの充実を図るとともに、本校で学ぶすべての生徒が「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。

イ 「共生推進教室」の生徒への適切な指導や必要な支援を通じて、自己理解と社会参加への自信、就労への意欲を育てる。

3年卒業時、共生推進教室に学ぶ生徒の就労100%をめざす。

5. 規範意識の醸成

ア 部活動加入を積極的に奨励し、生徒の学校生活の充実を図る。日々の部活動を通じて協調性や積極性、努力する態度を育てる。

イ 遅刻、頭髪、服装、原付、あいさつ、清掃等の指導等、基本的生活習慣やマナーの確立を通じて、社会性を育てる。

6. 進路実現

ア 学年の学力生活実態調査結果や定期考査の振り返りを活用し、進路への意識づけ、学習の充実を図る。

学年の進路指導部、学習指導部の連携のもと、早い時期から進路に向けた適切な学習指導を継続的に行っていく。

「進路実現満足度100%の学校」をスローガンに、進路について考える機会を増やし、丁寧な進路指導・学習支援を通じて、生徒一人ひとりにとって満足度の高い進路実現をめざす。

a. 生徒向け学校教育自己診断「エリアや授業は将来の役に立つ」、b. 普総選アンケート（3年）「進路は選択エリアと関連があった。」の各項目について、a. 85%、b. 75%を目標に取り組み、3年後にはa. 90%、b. 80%をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分] 数値は H27 の肯定的評価 < 【 】 内は H26 の肯定的評価 >	学校協議会からの意見
授業改善 「授業はわかりやすい。学習意欲が高まる。」 生徒 64.1% 【58.1%】 1年 63.8% 【51.4%】 2年 61.2% 【64.0%】 3年 67.2% 【58.8%】 教員 100% 【100%】 「授業での生徒の学力を伸ばす工夫。」 生徒 67.8% 【67.5%】 1年 69.7% 【63.6%】 2年 61.1% 【74.3%】 3年 72.5% 【64.9%】 教員 100% 【100%】 「授業は静か。勉強に集中できる。」 生徒 62.8% 【63.1%】 1年 75.1% 【65.9%】 2年 66.6% 【61.2%】 3年 44.7% 【62.2%】 教員 94.0% 【100%】 「生徒の学力向上に熱心な先生が多い。」 生徒 67.8% 【67.6%】 1年 70.4% 【65.6%】 2年 61.9% 【75.5%】 3年 70.9% 【62.3%】 教員 98.0% 【100%】	第1回 7月11日（土） ○めざす学校像については、選挙権年齢の引き下げとも関わって、生徒自身が社会的な存在であることを考え合わせる必要が出てくるだろう。将来的な親としての意識を育てるために、小さな子どもと接するといった学習機会があればいいと思う。 ○授業アンケート結果からみると、授業内容は改善されてきているように思う。 ○高校受験で、金剛高校は第二希望から第一希望の志望校へシフトしてきている。行きたい高校として人気が高い。それは金剛高校の地域での評価ともつながっている。 ○地域的に近隣する本中学は金剛高校と中学校区が異なるが、地域の学校としてもっと金剛高校と相互連携を深めていきたい。 ○エリア発表会でたくさんの高校生が堂々とプレゼンテーションをしているのを見て、自分に自信を持てるように成長してきていると感じた。 ○人権意識については、自分を大切にす気持をさらに高めることが必要だと思う。自分を大切にすという気づきを持てるような授業や教育活動をお願いしたい。
学校の満足度 「金剛高校に満足している。」 生徒 87.5% 【81.6%】 1年 91.5% 【82.0%】	第2回 10月25日（日）【*生活文化エリアの障がい者との交流授業「秋祭り」を見学】 ○秋祭りは良い取り組みだと思う。教室にいるときの顔とは全然違う。いい顔をしている。 ○秋祭りは有意義な取り組みである。まず地域貢献、そして学び、気づき。もっと学校として宣伝すべきではないか。 ○秋祭りは回を重ねてかなり洗練されてきた。もうワンステップ次のステージへと進化さ

府立金剛高等学校

<p>2年 80.6% 【81.8%】 3年 88.2% 【81.3%】 「エリアや授業は将来の役に立つと思う。」 生徒 86.6% 【85.3%】 1年 91.2% 【89.3%】 2年 82.7% 【86.6%】 3年 85.1% 【80.7%】</p>	<p>せていけるのではないか。集団での活動体験は困難な課題に挑んでいく時の力を育む。 ○修学旅行の震災学習には重要な学びや気づきがあると感じる。継続していくべき。 ○大阪の子どもたちは自尊心が低いとよく言われる。校区フェスタでフェスタの準備作業を中学生にさせたりしても、地域活動に参加している意識が当の中学生にはない。地域コミュニティに参加することの意味を教える必要があるし、そうすることで地域と繋がる行事は自己評価を上げるきっかけとなりうる。 ○1年次の職業人インタビューでの個人発表、2年次のエリア発表、震災学習といった経験を通して、3年生の自己評価は比較的高い。自己評価をあげる場が金剛高校にはたくさんある。よい場をこれからも提供していきたい。</p>
<p>☆「普通科総合選択制高校アンケート」(3年) 「普総選高校で学んでよかった」 92.7% 【90.6%】 「卒業後の進路は自分が選択したエリアと関連があった」 77.8% 【69.8%】</p>	<p>第3回 2月6日(土)</p>
<p>安全で安心な居場所、クラスづくり 「クラスは一人ひとりが大事にされ話しやすい。」 生徒 83.1% 【83.9%】 1年 81.2% 【85.7%】 2年 80.9% 【86.9%】 3年 87.3% 【79.6%】 「先生は問題を見逃さず親身に相談に応じてくれる。」 生徒 72.3% 【69.9%】 1年 76.7% 【62.2%】 2年 63.8% 【74.0%】 3年 75.6% 【72.8%】</p>	<p>○エリア発表会(2月3日開催)を見て感じたことは生徒の感性がすごく良い。発表を見る姿勢も共感的で声援がかかるなど温かい雰囲気だ。競い合うというよりも、和気藹々とした雰囲気が良い。観る側も含めてみんなで発表会を作っている感じがする。日々の人権学習等への取組みの表れだろう。 ○素晴らしい取組みなのに保護者の参加人数が15人というのは少ない。PTAとして残念だ。もっと保護者に関心を持ってもらい、学校に足を運んでもらう工夫がいる。PTAとしてもエリア発表会だけでなく、学校行事に協力し、保護者や地域を巻き込んだ活動を工夫し広げていきたい。学校からの発信にも期待している。 ○発表を見ていて、生徒間、教師と生徒間、教師間の仲が良いと感じる。生徒の発表意欲、工夫が見られた。エリア発表会に臨む生徒の姿勢も年々進化してよくなってきている。 ○違うコースの発表も見られ、互いの学びを共有し、道は違ってもお互いの分野で頑張っているところを確認しあえるのが良い。講評で大学の先生の話の間近で聞けることも良い。 ○アクティブラーニングの導入期にエリア発表会がこんな形で金剛の教育活動の核に定着するのが良い。教員間の共有やねらいを明確にすることが今後大切になる。</p>
<p>人権問題への理解、社会的課題への関心 「人権を学ぶ機会と人権問題への理解。」 生徒 82.3% 【83.5%】 1年 89.5% 【84.9%】 2年 65.3% 【78.7%】 3年 89.4% 【85.9%】 「総合等での新しい社会的課題を学ぶ機会があった。」 生徒 80.7% 【77.7%】 1年 85.1% 【71.1%】 2年 72.1% 【76.8%】 3年 83.6% 【84.5%】 「HRや発見(総合)で生き方や将来を考える機会があった。」 生徒 83.2% 【81.5%】 1年 94.2% 【83.2%】 2年 65.8% 【79.8%】 3年 86.1% 【81.4%】</p>	<p>○本気で取り組んでいる大人との出会いは学生を変える。エリア発表会等の取組みを通じて、社会で活躍する素敵な大人との出会いの場を作ることはとても大事。 ○論理の展開の仕方やその根拠となる情報について、一部疑問に感じるところがあった。ネット等の情報に頼りすぎるのではなく、確かな情報収集、調査に基づいて論理を組み立てることが大切。充実したい発表会だったが、研究の基本姿勢についていいねいな指導を先生方をお願いしたい。 ○葛城中学校2年生の体験授業(2月12日)も4年目。毎年大変お世話になり感謝している。今年度は中学校のインフルエンザ感染に伴う日程変更に急速対応していただいたことも大変ありがたかった。中学2生3学期の進路を考えるスタートにあたって、金剛高校で授業体験を通じて、高校という新しいを実感させてもらえるの意義はその後の進路決定にとって極めて大きい。誇れる中高連携の取組みだと思う。 ○体験授業では、外の世界と繋がるのが大切ということを実感させてもらっている。中学生が社会に関心を持つ、また進路に向けた大きな経験になっている。 ○人権アンケートでは周囲の大人から期待されている、自分を大切にすることが高まったという項目を上昇させることが生徒の自尊心を高めることに繋がる。人権問題に関心がある、問題に対し何らかの行動を起こすべきと考える生徒が入学時から3年間で増加していることは素晴らしい。 ○次年度、共生コースの生徒支援に教員だけでなく学習サポーターの活用をしていく。大学生、卒業生、地域の方にもっと関わっていただければいい。学校協議会としても積極的に人材の確保等に協力していきたい。</p>
<p>☆3年間の人権意識の変化を比較した「人権意識調査」(3年) 「人権に関心を持っている。」 3年次 82.6% 【79.6%】 ← 1年次 58.9% 【59.6%】 「自分を大切にすることが高まった。」 3年次 76.1% 【67.1%】 ← 1年次 67.2% 【63.0%】 「人間関係の大切さを学んだ。」 3年次 94.5% 【87.1%】 ← 1年次 89.4% 【87.2%】 「差別的な言動を見聞きした時、どのような態度をとるか。」 ○『差別を指摘して話し合う。差別はいけないと伝える努力をする。』 3年次 53.2% 【48.8%】 ← 1年次 46.4% 【44.0%】 ○『何もせずに黙っている。』 3年次 10.8% 【16.4%】 ← 1年次 15.0% 【21.8%】</p>	
<p>進路指導 「進路について学校は必要な情報や機会を提供している。」 生徒 90.9% 【85.8%】 1年 94.5% 【86.6%】 2年 84.7% 【88.6%】 3年 92.8% 【83.0%】 「放課後や土曜日、長期休業中の講習、校内模試など進路実現に向けて取り組んでいる。」 生徒 82.2% 【77.9%】 1年 77.2% 【72.1%】 2年 81.3% 【78.8%】 3年 88.7% 【82.6%】 「進路相談やHRなどで熱心に進路指導している。」 生徒 81.3% 【77.2%】 1年 82.4% 【71.0%】 2年 76.0% 【80.3%】 3年 85.2% 【79.9%】</p>	
<p>生徒指導 「学校生活全体の指導は適切である。」 生徒 82.3% 【79.4%】 1年 73.8% 【81.5%】 2年 73.8% 【78.4%】 3年 87.8% 【78.2%】 「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切である。」 生徒 74.0% 【72.7%】 1年 77.2% 【70.6%】 2年 68.9% 【70.3%】 3年 79.4% 【77.0%】</p>	

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 【 】内はH26の肯定率	自己評価
1. 確かな学力と進路実現	ア わかりやすい授業づくり	ア. 授業改善サイクルの充実を図る。年2回の授業アンケートだけでなく、日常の生徒との対話を通じて授業改善に努める。 (授業改善シートの作成) ユニバーサルデザインを意識した授業づくりの研修。授業公開、各教科での研究授業の実施。	ア. 生徒向け学校教育自己診断「わかりやすい授業」【58.1%】→60%、「学力を伸ばす工夫」【67.5%】→70%、「授業が静かで集中できる」【63.1%】→65%、「生徒の学力向上に熱心な先生が多い」【67.6%】→70.0%を目標に取り組む 授業改善の研修、各教科での研究授業の実施	ユニバーサルデザインを意識した授業づくりの研修(7月)。授業アンケート結果をもとに各自、教科で1学期の授業の振り返り(8月)。2学期授業で授業アンケート結果を踏まえ、授業についての考えや授業改善策を生徒にフィードバック。授業改善シート提出。(9月)先進事例校の視察、報告。(10月)授業改善、研究授業の実施(10月-11月)第2回授業アンケート(12月)をもとに授業改善の効果の振り返り(授業改善シート提出)。授業改善に取り組む機運は一定達成することができた。(○)
	イ 「考える」授業づくり	イ. 授業での言語活動を重視し、小グループでの学習活動や発表の機会を取り入れる。 また、各エリアでの学習の充実を図り、エリア発表会で学習成果を発表する。	イ. エリア指定科目等での言語活動を重視した探求型・体験型授業の実践 生徒向け学校教育自己診断「エリアや授業は将来の役に立つ」【85.3%】→85% 普総選択アンケート(3年)「進路は選択エリアと関連があった」【69.8%】→75%を目標に取り組む	<u>生徒向け学校教育自己診断</u> 「わかりやすい授業」 64.1% 【58.1%】 「学力を伸ばす工夫」 67.8% 【67.5%】 「授業が静かで集中できる」 62.8% 【63.1%】 「生徒の学力向上に熱心な先生が多い」 67.8% 【67.6%】 「わかりやすい授業」以外、目標値には至っていないが、一定わかりやすい授業づくり、学力を伸ばす工夫には一定取り組めた。教員それぞれの工夫、努力が目に見える形で生徒にはある程度伝わっている。引き続き、教員相互が連携して授業改善に取り組んでいく必要がある。(○)
	ウ 地域と連携しての交流、体験学習学習成果の発信	ウ. 特色ある授業や取組みでの地域の学校、施設、団体との交流、体験授業を継続、推進する。 生徒の成長や学習成果を地域に発信する。	ウ. 保育や福祉、理科等特色ある授業での学校、施設、団体との交流、体験授業の実践、新規の取組み エリア発表会の開催 じないまち芸術展の開催	保育・福祉、理科等特色ある授業での学校、施設、団体との交流には今年も活発に取り組んだ。加えて、介護基礎、福祉基礎(ともに3年)で藤沢台小学校と、地域実習(2年)で津々山台幼稚園との授業交流が今年新たに実現した。中高連携の一環で葛城中学校2年生の進路学習のスタートとして体験授業を2月12日に実施。(インフルエンザ発症で1月実施を変更し2月実施で対応) 2月3日にエリア発表会を実施。(すばるH) じないまち芸術展は12月に開催。ともに3年目を迎え、エリア指定科目や選択授業等での実習、課題研究、発表等の言語活動が定着してきている。芸術系は授業の工夫とともに地域への発信にも熱心に取り組んでいる。エリア発表会の取組み以外でも、英語や国語等の授業では発話や音読、作品鑑賞等言語活動が取り組まれている。(◎)
	エ 進路に向けた意識の醸成	エ. 各学年の進路指導部と学習指導部の連携会議を軸に、生徒情報や進路課題を共有し、1年次の早い段階から、進路を考えさせるキャリア教育に取り組み、進路に向けた意欲を育てる。	エ. 生徒向け学校教育自己診断「進路に必要な情報や機会の提供」【85.8%】→85%、「進学講習や校内模試等進路実現の取組み」【77.9%】→80%、「進路相談やLHRでの熱心な進路指導」【77.2%】→80%を目標に取り組む	<u>生徒向け学校教育自己診断</u> 「エリアや授業は将来の役立つ」 86.6% 【85.3%】 「進路に必要な情報や機会の提供」 90.9% 【85.8%】 「進学講習や校内模試等進路実現の取組み」 82.2% 【77.9%】 「進路相談やLHRでの熱心な進路指導」 81.3% 【77.2%】 <u>普通科総合選択制高校アンケート(3年)</u> 「普総選高校で学んでよかった」 92.7% 【90.6%】 「進路は選択したエリアと関連があった」 77.8% 【69.8%】

府立金剛高等学校

2. 豊かな人権感覚の醸成	<p>ア 生徒相互の関わり、協働性の重視 自尊感情や相互の信頼感を醸成する人権学習、総合学習、学校行事</p>	<p>ア. 新入生オリエンテーション（1年）、クラススタートアップ、個人面談、そして遠足に至るクラスづくりの取り組みの充実を通じて、安心感のある高校生活を支援する。行事等のクラス活動を通じて、生徒相互の関わりや協働性を育てる。</p> <p>イ. 生徒の実態に即し、当事者との出会いや体験等、生き方を考えさせる人権学習、総合学習を企画し、実施する。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断 「金剛高校に満足しているか」【81.6%】「一人ひとりが尊重され気軽に話せるクラスか」【83.9%】→それぞれ85% 普総選択アンケート（3年） 「普総選で学んでよかった」【90.6%】→90%を目標に取り組む</p> <p>イ. 生徒向け学校教育自己診断 「人権問題の理解」【83.5%】、「社会の新しい課題を学ぶ機会」【77.7%】、「HRや総合で生き方や将来について考えたか」【81.5%】→それぞれ肯定評価80%を目標に取り組む 人権意識調査（3年） 「人権に関心を持っている」、「自分を大切にしている気持ちが高まった」、「人間関係の大切さを学んだ」の1年からの上昇、「差別的な言動を見聞きした時の態度」について『差別を指摘し話し合う。伝える努力をする』【4.8%↑】、『何もせずに黙っている』【5.4%↓】という項目の1年から3年へそれぞれ5%、合計10%の変化を目標に取り組む</p>	<p>生徒向け学校教育自己診断 「金剛高校に満足しているか」 87.1% 【81.6%】 「一人ひとりが尊重され気軽に話せるクラスか」 83.1% 【83.9%】</p> <p>普通科総合選択制高校アンケート（3年） 「普総選高校で学んでよかった」 92.7% 【90.6%】</p> <p>概ね目標値を超える、または近い数値の評価が出ている。新入生オリエンテーションからクラススタートアップ、個人面談、遠足（クラス活動）と、4月当初から丁寧にクラスづくりの効果が大きい。行事、クラス活動等を通じて、生徒相互の関わりから協働性も生まれ、学校、クラスが安心できる居場所だと感じている生徒が多い。 2年修学旅行では、学年全員で岩手県大槌町を訪問。グループに分かれてのフィールドワークと聞き取り、交流を体験。多くの生徒にとって生き方や今の生活を考えるきっかけとなった。(◎)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断 「人権問題の理解」 82.3% 【83.5%】 「社会の新しい課題を学ぶ機会」 80.7% 【77.7%】 「HRや総合で生き方や将来について考えたか」 83.2% 【81.5%】</p> <p>人権意識調査（3年）：1年次と3年次の比較 「人権に関心を持っている」 23.7%↑：3年次 82.6%←1年次 58.9% 「自分を大切にしている気持ちが高まった。」 8.9%↑：3年次 76.1%←1年次 67.2% 「人間関係の大切さを学んだ。」 5.1%↑：3年次 94.5%←1年次 89.4% 「差別的な言動を見聞きした時、どのような態度をとるか。」 ○『差を指摘して話し合う。伝える努力をする。』 6.8%↑：3年次 53.2%←1年次 46.4% ○『何もせずに黙っている。』 4.2%↓：3年次 10.8%←1年次 15.0%</p> <p>3年間の学習を通じて人権に対する関心、意識が大幅に高まっているのが今年度の特徴。それに呼応して自己肯定感や他者との共生、人間関係の大切さに対する意識も上昇している。また、差別に直面した時、沈黙せずに伝える努力など何らかの行動を起こそうとする意識も、目標値を超えて上昇している。学年団の3年間の丁寧に地道な取り組みの成果といえる。(◎)</p>
3. 生徒支援体制の充実	<p>ア 生徒の実態把握 ときめ細やかさや支援、指導</p>	<p>ア. 生徒支援カード(1年生)の情報を学年会議、教育相談委員会で共有し、支援の必要な生徒の早期発見、具体的支援に努める。</p> <p>イ. 教育相談委員会、人権教育推進委員会で生徒状況の経過観察を行い、必要に応じて学年と協議の上ケース会議を開く。外部機関や専門家とも連携して、支援にあたる。共生推進教室の生徒についても、共生推進コーディネーターと密に連携し、必要に応じて適切な支援、ケース会議の開催を行う。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断 「問題を見逃さず相談に応じてくれる」【69.9%】→75%を目標に取り組む</p> <p>イ. ケース会議の適切な開催、成果</p>	<p>生徒向け学校教育自己診断 「問題を見逃さず相談に応じてくれる」 72.3% 【69.9%】</p> <p>目標値を超えるには至っていないが一定上昇している。人権教育委員長を軸に、教育相談委員長、支援教育コーディネーターの連携が密になり、支援や配慮の必要な生徒情報の共有が進んだ。担任を窓口にしての丁寧な相談、支援も一定程度できている。ただ、生徒支援カードはまだ十分には活用できていない。積極的に効果的な活用についてはさらに検討、工夫が必要。(○)</p> <p>喫緊の課題が多かったH26に比べると外部の専門家を招いてのケース会議の開催頻度は多くなかったが、個別の支援については、必要に応じて小規模のケース会議や関係者会議を適宜開き、具体的支援を取り組んだ。(○)</p>

府立金剛高等学校

4. 「ともに学び、ともに育つ」教育の充実	<p>ア 共生推進教室の教育内容の充実、ともに学びともに育つ教育の推進</p>	<p>ア. すべての教職員が協力し、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導や必要な支援を行い共生推進教室の教育内容の充実に取り組む。</p> <p>イ. 本校で学ぶすべての生徒に共生推進教室の意義を周知し、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。</p> <p>ウ. たまがわ高等支援学校と連携し、既存の共生推進教室設置校内PTを引き継ぐ新たな校内体制を整備する。</p>	<p>ア. 共生推進教室の教育内容や「ともに学び、ともに育つ」教育の推進についてのアンケート評価</p> <p>イ. 学校協議会、共生推進教室の教育内容や「ともに学び、ともに育つ」教育の推進についてのアンケート、学校教育自己診断等アンケートの評価</p> <p>ウ. 校内 PT を引き継ぐ新校内体制の早期の整備、取組みの検証</p>	<p>「ともに学び、ともに育つ」教育の推進についてのアンケートは今後実施予定。</p> <p>様々な課題に試行錯誤の一年であった。共生支援 Co を中心に粘り強く一つひとつの課題解決に取り組む一方、行政（福祉）や地域の支援機関、専門家の協力を得てネットワークを構築し、その中で生徒理解を深めたり、生活支援や学習支援のあり方を模索した。学校全体で取り組むべき課題として、全教員で原学級授業への入り込みを行った意義は大きい。未解決の課題は多いが、次年度に繋がる取り組みはできている。(○)</p> <p>様々な理由からクラスや学年の生徒が共生生徒と日常的に接する機会は多くない。十分な交流、共生が実現している言えない状態だが、彼らを理解し、何らかの形で関わろうとする姿勢は当該クラスでは育まれている。(○)</p> <p>旧校内 PT メンバーで 8 月と 1 月に共生推進教室の教育内容や学習支援体制等について検討協議し、次年度の体制案を提示した。</p>
5. 規範意識の醸成	<p>ア 基本的生活習慣の確立</p> <p>イ 部活動の促進</p>	<p>ア. 生徒指導部と学年が一体となって遅刻、頭髪、服装、原付等の指導を行う。</p> <p>あいさつ、特に朝のあいさつの励行を全教員で推進する。</p> <p>イ. さまざまな機会を通じて、新入生への部活動への参加を積極的に推進する。</p>	<p>ア. 年間遅刻者 1800 以下を目標に取り組む</p> <p>生徒向け学校教育自己診断「学校生活全体の指導は適切か」【79.4%】→80%、「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切か」【72.7%】→70%を目標に取り組む</p> <p>イ. 新入生の 70%入部、60%定着</p>	<p>年間遅刻者</p> <p>遅刻は今年度各学年とも大幅に減少している。基本的な生活習慣が安定した生徒層が増えたこと、そして生活指導部と各学年団の協力による粘り強い遅刻指導が定着し効を奏してきたことによる。今年度末集計で 1120。生活指導部と学年団の連携、粘り強い指導の結果、目標値を大きく下回り、大きな成果をあげることができた。(◎)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断</p> <p>「学校生活全体の指導は適切。」 82.3% 【79.4%】</p> <p>「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切。」 74.0% 【72.7%】</p> <p>目標値は達成している。生徒は、概ねみんなが守るべき学校の規則、指導を理解し、その指導は適切と受け止めている。(○)</p> <p>1 年生のクラブ加入は 1 学期男子 54.3%、女子 69.3%。昨年に比べ男子の加入率が低い。男女とも目標の 70%には至っていない。その後概ね 60%程度の生徒が継続加入している。(○)</p>